

伊藤秀夫家資料について

伊藤秀夫家資料は、平成7年秋当館に寄贈された199点の文書類と、約28点の諸道具類である。

伊藤家の先祖の名前は、宝暦年中（1760年代）頃から、高遠藩士の勤仕録の中に記録されており、藩内での御役目は、代々御山奉行下役として山林関係の世話係や、元々役所の物書、御払い方などを勤めていた様である。

伊藤家資料の中で、最も目に付く物は、何といたっても荒木流の諸武芸の伝授書等、武術関係の文書である。

伊藤家は、殊のほか熱心に武術に励み、道場を持って、何代にもわたって高遠藩内で、下級武士達の師範を勤めたと思われる。入門に際しては、厳重な誓詞を提出させたものらしく、血判の跡も生々しい書付も、沢山残されている。

明治維新の混乱期、戊辰の戦役に参戦した際の、官軍『北陸道先鋒会計方』発行の通行証等、珍しい物も見つかった。

道具類には、主として明治初期から大正にかけての身の回りの古道具類や、庶民のちょっとしたお宝物（メダルや時計）など、当時の生活の有様を彷彿させる物があり、丁寧に作られた押絵のお雛様もあった

明治40年頃作られた、裁縫用の諸衣類の見本は、正確に縮尺された、手の込んだ物で、当時の女性たちの、裁縫に対する熱い気持ちを感じさせる品である。